

クラブライフの提案

「プライベートリゾートエクシブ」

目次

【1】伊藤代表とのインタビュー

- 1-1: 狙いは「センスの良い高級感」
- 1-2: 景気の逆風に備えて慎重に対応
- 1-3: 設計事務所とは丁々発止
- 1-4: 聞き手Qの感想

(注)これ以降は敬称略で作成しています。

【2】エクシブ「八瀬離宮」と設計

- 2-1: リゾートトラストと日建設計
- 2-2: 第三世代論…設計者の視点
- 2-3: 設計者の創意工夫
- 2-4: グローバル京都に向けた意見交換

【3】レストランとお庭の自慢

- 3-1: GMの演出
- 3-2: ある夜のイタリアンレストラン「トラットリア ジョバーノ」
- 3-3: シェフの加藤との軽い料理談義
- 3-4: お庭自慢
- 3-5: ランドスケープアーキテクトのこと

【4】エクシブ湯河原離宮と設計

- 4-1: 湯河原離宮のかたち
- 4-2: リゾートトラストと観光企画設計社
- 4-3: 観光企画設計社が提案した「尾形光琳」
- 4-4: 「琳派モダン」

【5】琳派レストランと名湯じまん

- 5-1: インバウンド(訪日外人客)の少ない湯河原
- 5-2: なんといっても湯河原きっての源泉

【6】発想の源…ヴィラデステ (Villa d' Este)

- 6-1: ヴィラステがあるコモ湖畔
- 6-2: もとは枢機卿そして英ジョージ4世妃らの別邸

6-3:ハイエンドなリゾートホテルに改装

6-4:ヴィラデステと離宮シリーズ

【7】もうひとつの原点…リッツパリ(Ritz Paris)

7-1:「王子が自分の家で望むことができるすべてのエレガント」を提供

7-2:会員制のような高級ホテル

【1】伊藤代表とのインタビュー

1-1: 狙いは「センスの良い高級感」

リゾートトラスト(以下 RT)の会員制宿泊事業は、サンメンバーズ(1974年ひるがの～)→リゾーピア(83年熱海～)→エクシブ(以下 XIV)(87年鳥羽～)→グランド XIV(2000年初島～)→サンクチュアリ(03年鳴門～)→離宮(06年京都八瀬～)→ベイコート(08年東京～)→別邸(16年鳥羽)というように時代とともに顧客のニーズを深堀し、いわばあらたな業態を工夫して時代に適応し、一貫して高級化路線を歩んできた。

しかしながら、サンクチュアリ・離宮あたりから、単に高級化というだけでは尽くせない何か潜んでいるように感じた。当時、全国紙の全面広告を使った「エクシブ京都八瀬離宮(以下八瀬離宮)」の広告から抱いた筆者の印象である。

そこで、離宮シリーズの第一号の八瀬離宮を紹介するにあたって、あらためて伊藤與朗代表の考え方を伺いすることとした。

ただし「八瀬離宮」の開業は2006年、開発となればさらに数年前、少なくとも、ひとまわり(12年)以上もまえの、思い出話を伺うことになる。

Q(聞き手・大谷): あたらしい施設を考えるときのそもそもの基本は？

A(伊藤代表): まずは良いものを造ろうと思ったら良い立地であること。

Q: 良いものとは？

A: 良いものにもいろいろある、XIVとかベイコートとか目的によって異なる、海と山でも異なる。

...

A: 開発部門は平素から「網」を張っている。こちらから積極的に探すだけでなく、民間や官公庁からもいろいろな案件が舞い込む。

Q: 集まった案件の評価基準は？

A: 会員に喜んでいただけるような場所であること、東京・名古屋・大阪から2時間くらいで行けること、「あらたな施設の立地が既存の施設の配置とバランスが取れていること。

Q: 開発用地の候補が絞られたあとは？

A: 空間を見ていると、あるとき施設のイメージが浮かぶ。それは、当然に、「会員にとって良いもの」でなければならない。

Q: そのイメージはどこから浮かぶのか？過去の試行錯誤とか経験とか人生観のようなものがヒントになって、なんらかの形が浮かぶのであろうと推察するが。

A: 経験といえば、会員制のビジネスを始める際に最高のものを見ておこうと考え、スイスとイタリアの中間にあるコモ湖のヴィラデステ(Villa d' Este・詳細後述)というホテルに行った。プールがコモ湖の湖面に突き出ている。今から45年前の話である。このホテルを見て「凄いな」「いい感じだな」と思った。伊藤勝康会長と一緒に見た。当時世界最高のリゾートホテルだった。

まだいまの事業を開始していない頃だ。いきなりコモに行った。最高のものを見て、我々も最高のものを作ろうと、夢を大きく持った。ホテルに色々なコンセプトがあるけれども、我々は理想的な世界一のホテルを作ろうと志した。

Q: 高い理想を抱いておられた。

A: 単に金儲けを追いかけるといふ考えは最初からなかった。

Q: 45年もまえに遡ると1973(昭和48)年、列島改造論の頃だ。この頃のヴィラデステに注目された。

A: 芸術的に建てたホテルはめったにない。その点でリッツパリ(Ritz Paris)はすごい。規模は小さいが調度や内装に至るまでデザインが統一されている。ヴィラデステのようなセンスの良さがある。客室が500も600もあるヒルトンのような大規模ホテルはまた別物だ。それとは異なった高級感である。

(注)旧グラモン公爵邸由来のラザン館を買収し1898年セザール・リッツが設立。仏料理開祖のエスコフィエが協力。仏政府ホテル最高格付《distinction Palace》に非該当のため2012年休業、4億ユーロを投じ大改装し2017年再開、143室。パリの最高級ホテル。詳細後述。

Q: 日本ではいかがか。

A: あとからでてきたリッツカールトン(The Ritz-Carlton Tokyo、2007年開業)やフォーシーズンズ(Four Seasons Hotel Tokyo at Marunouchi、2002年開業)はなかなか素晴らしい。わたくしが思っているようなほんとうの高級ホテルが初めて登場した。東京駅の近くのフォーシーズンズは客室57の小さなホテルだ。リッツカールトンのレベルを維持してリゾートホテルをイメージすると、ヴィラデステに匹敵するものが浮かぶ。僕はこういうホテルが好きだ。

Q: 会員制ゆえに規模の限界はある。ほんとうの高級ホテルとは。

A: 会員制は規模を追わない。センスとクオリティー。カネはかけるが、成金趣味ではない。カネをかけても仰々しくない。品の良さを維持する。

Q: ヴィラデステはこうした特徴を凝縮している。

A:分かる客に来てもらいたい。キラキラピカピカではない。会員制とはそういうものではない。

Q:そういう意味ではまだまだ日本には市場がある。

A:ヴィラデステはリゾートのモデルだが、大都市の場合でも少しかえるだけだ。センスや品の良さとは何かという問題はリゾートも大都市もおなじだ。

1-2:景気の逆風に備えて慎重に対応

Q:その時代の経済状況も関係してくる。

A:会社の創立は1973年4月。いきなりオイルショック(いわゆる昭和50年不況)に襲われた。わっと上がってストーンと落ちた。ひるがの・ヴィア白川(1974年12月開業・サンメンバーズ)ともに良く売れたけれど、その分キャンセルも相次いだ。金利は高かった。会社に資金がなかったから個人的に工面してつぎ込んだ。

Q:理想に近づいたのは

A:オイルショックを引きずってきた。抜け出したのは山中湖(1993年開業・252室)あたりからだ。関東では伊豆・軽井沢をやって次に山中湖。そろそろ良いだろうと思って再スタートしたら、こんどは90年バブルの崩壊に出会った。理想に近い物を求めた瞬間のバブル崩壊だった。山中湖と同時に白浜アネックス(93年開業144室)も作った。また苦勞した。

Q:逆風が吹いた。

A:大きくやったところが潰れた。トナム、ハウステンボス、シーガイア。マンションの大京も派手にやっていた。羨ましいと思ったときもあったが。

(注)トナム(1983年開業・87年ザ・タワーI・98年アルファ・コーポレーション・負債1061億円・自己破産)、ハウステンボス(1992年創業・負債2,289億円・2003年会社更生法)、シーガイア(93年創業・99年45階建744室・ホテルオーシャン45・負債2,762億円・2001年会社更生法)、大京観光(1964年創立、04年産業再生機構による支援)。

...

Q:いま例示された倒産事例に共通するのは収益不足。事業計画の基礎となる構想がどのように描かれていたのか。トップバンクが融資していながら安易だったのであろう。その点、代表はきちんとしていた。ゆえにいまがある。

A: 当時、知人から「伊藤さんのところはなぜ倒産しなかったのか」といわれたものだ。いろんな話はあったが手を出さなかった。慎重に対処した。会員制だから部屋を買っていただく。ある程度売れてからつぎの開発に向かう。

Q: 事業全体の状況が瞬時にパノラマのように浮かぶ。

A: そう簡単ではないが、いずれにしても、用地も一か所だけではない。会員も複数個所を利用する。会員のこころを押し量りながら、こだわってきめていく。会員 が利用するのはひとつだけではなく、ほかの施設も使う。関東・中部・関西の各ブロック間のバランスを取りながら、ブロック内の一つひとつに魅力を出していく。こうした組み合わせがシナジー効果を生む。したがって用地の選定は非常に重要だ。

Q: おのずから慎重になってくる。

A: 場所にあわせてホテルのコンセプトをすべて変える。会員から見れば同じものを造ったら面白いとは思わない。ホテル A に滞在した会員がホテル B を 利用したときも、同じようにしか受けとめなかったら面白いとは思わないであろう。コンセプトは変えなければならない。しかしそう勝手に変えられない。土地 に合わなければ魅力はない。あたらしいコンセプトに合った用地を探すこともある。しかし土地にあわせすぎてもよいとは限らない。次はどういうコンセプトで くるのか会員はみている。なにかネタが必要だ。このあたりが難しい。周囲がそろそろネタ切れというとき頑張って考える。設計の前のコンセプトが重要な の だ。設計の前にコンセプトを決める。コンセプトに沿って設計する。これが大事なのだ。

Q: まさに同感である。建物や内装の設計者に渡す前のコンセプトの形成こそが究極の設計であって、その後の設計工程は徐々にルーチンになっていく。

A: コンセプトを考えるとき、海外のホテルが参考になる。名古屋では都ホテルを設計した村野藤吾という有名な建築家の訪問を受けたことがある。彼が大切にしていたファイルがあつて、それを見せてくれた。海外視察したときのホテルはもとより、ホテル以外の写真も、たとえば外装の看板から階段の手すりに至るまで画像が詰まっていた。その手すりもたくさんの種類のものであつた。そこからいろいろなヒントが出てくる。それを膨らませて提案していく。ささいなことからも ヒントを得てホテル全体が出てくることもある。なるほどと思った。

(注) 村野藤吾(1891~1984年、55年日本芸術院会員、67年文化勲章・代表作例・日生劇場・1963年築)。名古屋では錦通りの名古屋都ホテル(1963年開業・2000年廃業・撤去)の意匠設計を担当した。

Q: 写真を撮って整理するかどうかは別にして、過去の経験からヒントを得ている。そういう意味では代表も同じことをしている。

A: わたしはプロではないが…。

1-3: 設計事務所とは丁々発止

Q: コンセプトがきまったら提案を求める。しかし、提案をそのまま受け入れるとは思えない。

A: 設計者とはこれだけたくさん付き合ってきた。みな一流の事務所だ。コンセプトの打ち合わせのとき、リゾートホテルについて何かいい案を出せといっても、何かしら持つてはくるが、中身はさっぱりという場合もある。こちらからコンセプトを与えるとその先はプロだ。一流の仕事をする。

Q: そこが肝心なところ、ノウハウだ。

A: 本当のノウハウだ。

Q: 用地を特定して構想を重ねコンセプトを作りあげていく作業は、わたしひとりではない。伊藤勝康会長との打ち合わせが重要だ。彼はわたしにはないものを持っている。

Q: 議論の生産性が高くなり、ある場面で急に充実していくであろう。

A: ひとりだと閃かないこともある。ふたりで議論していると閃く。ヴィラデステにも一緒に行った。この事業のスタートから一緒にやっている。コンセプトを議論すると得るものは大きい。

Q: とともに充実した経験があり共有されているので思考の生産性が高くなる。それだけいいものができる。理想的な状況だ。

A: この頃オープンしたある有名ホテル。期待していたのだががっかりした。関係者は褒めそやすが、この程度のものをよくぞ作ったなというレベルだ。カネもかかっていない。経営者が設計事務所にポンと渡してそれっきりで作ったような感じだ。普通の施主だと設計事務所になかなかものをいえない。それなりに能力がないといえない。予算は決まっている。丸投げすれば、設計事務所は「これでどうか」と提案してくるが、なにもいわなければ「その通りでよい」となってしまう。

Q: 分業と統制の企業官僚制で取組めば、ご指摘のようなホテルになる可能性がある。外形的に規則に反しないことが重要だ。中味は各段階の中間管理者次第。逆にトップが下手に口出ししてデザイナーをつれてくると、その部分がちぐはぐになりかねない。

A: あの素晴らしい立地が生きない。味のないフツーのホテルになってしまった。高額な室料を取るのだから高級感をだすべきだ。高級さが出ていない。たとえばパリのリッツ(Ritz Paris)なら「おお」という感動がある。高級というのは豪華を意味しない。センスを意味する。センスの良い高級感だ。当社では会員様には何千万円という費用を負担していただく。センスの良い高級感を示す必要がある。

...

Q:「センスの良い高級感」とはなにか。このレベルになるとふつうに勉強しただけでは身に付かない。経験(いわゆる学習)が必要だ。

A: 丁々発止で経験を積まないと会得できない。一流の設計事務所と議論を戦わせる。こちらにも勇気がいる。

Q: 実際にやってみないと分からない。

A: 大体はわかっているつもりなのだが、こちらは素人なので、わからないことがでてくる。机上だけでは気が付かないこともある。現場で初めてわかることもある。だからモデルルームを3部屋くらい作る。それだけでも億単位の費用がかかる。それでもモデルルームは造って、それを見て吟味する。全体のデザインはすでにOKを出している。しかし部分々では、思い通りでない箇所もでる。いろいろ修正していく。終われば壊してしまう。

Q: コンセプトは全体だけでなく細部も支配している。

A: モデルルームは社員にも公開する。自信が沸く。こうしたチェックは重要なプロセスだ。これを理解できることも大切だ。

1-4: 聞き手Qの感想

たかだか1時間のヒアリングだったが、原稿化するにだいぶ時間がかかってしまった。このヒアで伊藤代表から引き出した「センスの良い高級感」の意味は、パリのファッション業界でよく用いられるフランス語の *élégance* に近いのではないかと感じた。

élégance は、イタリア語なら *eleganza* となるが、同じ意味かどうかは判断に迷う。ルネッサンスを歴史に持つイタリアの業界人はパリを一段下に置きたがる傾向なしとは言えない。ヴィラデステは途中でイギリス風が加えられたとはいえ、フランス人ではなくイタリア人の設計であるからだ。

またフランス語の *élégance* は、日本語では片仮名表記で「エレガンス」となるが、パリのクチュールメゾン (couture) でスタイリング (stylisme) 関連業務に数年従事した経験者(その数は少ない)によれば、*élégance* と「エレガンス」は同義語ではないと強調する。ファッション衣料の実務で *élégance* というと、重い意味があるのであって、単にブランドの問題ではなく、よって銀座にはパリ・ミラノの店が並ぶのだと…。事実、パリ・ミラノのファッション衣料は世界で売れるが、日本の製品はなかなか難しい。

伊藤代表は RitzParis も高く評価し、いわばベンチマークに加えていた。よって彼はイタリアにあるヴィラデステをあえてフランス語の *élégance* と解釈し、それを「エレガンス」と訳さずに、「センスの良い高級感」という、伊藤代表なりの「雅語」に託して、たとえば「八瀬離宮」に反映させた。筆者はこのように推理した。

ここに潜む思考のプロセス、いわば究極のノウハウが、リゾートトラストの会員制ホテル事業を成長させるひとつのおおきな源流になったのではないか。

そして、このような思考を具体の「かたち」にするのは、建築や設備そして内装・庭園などの設計家である。

八瀬という開発用地を前提に、伊藤代表らの頭脳に蓄積された「想い」を、建築資材等の組み合わせた「リゾートの空間」に変換していく。コンセプトという情報を空間という情報にいわば翻訳ないし翻案あるいは創造していく。そこで、このコンセプトのコアを推理するなら「ヴィラデステやリッツパリに凝縮された refinement や *élégance*」にたどり着く。ただのまねではない。その空間にただよう「センスの良い高級感」の具現化である。

したがって、そこにはまた膨大な知識や技術や施工能力が必要になる。日建設計と大林組(京都八瀬)あるいは観光企画設計と鹿島(湯河原)がその任を果たす。ときにあらたな解釈を思いつくであろうし、また誤訳もあろう。請負とはいえ、みえざる丁々発止は続くのであろう。さしあたりこのように考えて、2つの「離宮」を紹介する。

なお、以降は敬称略で記述する。

また、本文中でのリゾートトラスト(株)関係者のインタビューに関する記述は、2018年現在のものである。

【2】「八瀬離宮」と設計

2-1:リゾートトラストと日建設計

たまたま「八瀬離宮」の設計に従事した日建スペースデザインの戸井賢一郎から話を聞くことができたので、今回はおもに「内装」を取り上げる。

日建設計グループは日本の設計監理事業では最大規模にある。技術士と1級建築士をあわせて1,000名を超える。バルセロナなど7か所にリエゾンオフィスを、上海など中国3都市に関連会社をもつ。

その源流は、1900(明治33)年6月、住友本店に設置された臨時建築部であり、1945(昭和20)年、戦後の財閥解体で再出発した住友商事から分離独立した。住友商事の母体は日本建設産業、さらには住友土地工務、その端緒は大阪北港である。

「我住友の営業は時勢の変遷理財の得失を計り弛緩興廢することあるべし」と商いの要諦を説きながら、「苟(いやしく)も浮利に趨(はし)り軽進すべからず」と抑制する住友の家訓は、日本の経営史にも貴重な思想のひとつを提供してきた。こうした背景もあって、戦前の住友財閥では「商事会社」の事業はタブーで、戦後にスタートしたため、明治期からはなばなく成長した三井物産(戦後は第一物産など)や三菱商事(同不二商事など)に比べ「遅れてきた商社」になった。

さて、日建は、一連のXIVシリーズのなかで1993年7月に竣工した白浜アネックスを担当していた。今回は13年ぶりになる。そして戸井をはじめ3人が担当した。2004年の頃、彼らはまだ30代の後半であり、戸井は「訳がわからず、夢中になって仕事をした」という。

冒頭にも触れたが、1987年、鳥羽に始まったXIVという高級会員制リゾートホテルは、鳥羽、伊豆、白浜(紀州)、軽井沢、鳥羽アネックス、淡路島、山中湖、白浜アネックス、琵琶湖、蓼科と一連のシリーズとなって続いた。21世紀の2001年に入り、初島・鳴門・浜名湖・那須白河に、マリーナ・ゴルフ場・スキー場などの付帯施設と組み合わせで総合リゾートクラブのグランドXIVが登場した。

さらに 2003 年に隠れ家的な別荘を強調したサンクチュアリ・ヴィラが出現した。1974 年、ひるがのから始まった会員制リゾートホテルの普及は、XIV に 転じて高級化、総合化、個性化の道を行ってきたといえよう。「京都八瀬」の話が持ち上がったのは、ちょうどこのころであった。

普及と高級化が第一世代とすれば、総合化と個性化が第二世代、こう考えれば、戸井は「京都八瀬から始まった離宮シリーズは第三世代に属するのではなからうか」と指摘する。

2-2：第三世代論…設計者の視点

戸井が「八瀬離宮」に縁を持ったのが 2004 年頃。彼が感じ取ったかもしれない「第三世代」を筆者なりに仮想してみよう。

90 年バブルとその崩壊を生き抜き（あるいは 90 年バブルには関わりを持たずに）、90 年代の Web 社会に向かう情報ネットワーク化に伴って起きた大きな変化、たとえば ERP (Enterprise Resources Planning) のような統合データベースに適応し、一世を風靡した BPR (Business Process Re-engineering) の怒濤のリストラクチャリングを乗り越え、あるいは IT バブルや為替変動をも自らのキャピタルゲイン獲得の機会とし、むしろ情報化やグローバル化を確実にビジネスの糧としたつまりは、あるレベル以上のなんらかの「勝ち組」が登場していた。彼らをイメージするに、80 年代までに登場した「勝ち組」とは（その少なからざる人たちは退却していったのだが）、たいぶ価値観を異にしていた感じがある。

あれから 20~30 年を経て AI、IoT が再評価され、ERP とは別のタイプの分散型ネットワークのたとえばブロックチェーン (Blockchain) が台頭して、金融業界始め「取引革命」が起きようとしており、現代はまた、あらたな「勝ち組」の登場を予感させる。むろん、今更こういうことを指摘しても単調であり、本当は、20~30 年前のあの頃の息吹を、もっと上手に表現する言葉を探すべきなのであろう。

要するに、会員が活躍した思想や時代背景が異なれば、リゾートに求めるものもまた変わってくるはずである。今度遊びに出かけようと思いたち、リゾートという空間を思い浮かべたとき、そこに求める内容やグレードは、これまでの「世代」とは違ったものがあるかもしれない。

そうなれば、プロデューサーも設計者も、そうした変化は事前に探りあてていくことが必要だ。「八瀬離宮」のコンセプトをあらわす言葉のひとつに「クラシック・コンテンポラリー」がある。あるいはこの言葉にその回答が含まれているかもしれない。右図は「エクシブ京都八瀬離宮 S タイプ客室」

その頃、浜名湖が竣工していた。クラシックが続いたので、少しモダンにしたいという意向があったが、心配も多い。モダンにすると安っぽく見える、高級感が大切だが、モノが良くないと高級感が出ない。しかしいいモノを使えばカネはかかる。予算の制約がある。モダンでありながら高級感を出す。こうした制約のなかで、何ができるのか、ひとつひとつ必死になって考え、慎重に検討していた。



2-3: 設計者の創意工夫

そのひとつの例がモールディング (molding または moulding) である。世界大百科事典によれば、「建築、家具などの頂部や凹凸のある部分に帯 状に連続して施される縁どり」「枠どりの装飾」のことで、たとえば「壁と天井の接合部を明確に視覚化する」などして、「部材の接合部を美的に処理し、壁面 を保護する役割」意味があるという。

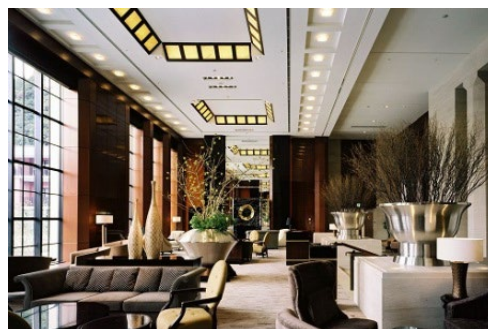
戸井はここで工夫した。「高級感が大切、部屋の装飾を考える場合でも、モダンな要素を取り入れ、モールド結ぶときも簡素化して小さいものを使い、かつ、それでいて安っぽくないようにした」という(◆画像参照)。この写真にはシャンデリアがあるが、モダンな雰囲気を出すためにモールディングの使い方を考えた。

また、洋室のなかで和室が取ってつけたような感じになりがちだ。しかし、これは避けたい、和洋室での和の部分が洋室のなかに溶け込むように考えた。京都だ からといって、伝統的な和室で畳や床の間という空間である必要はない。畳では洋室との境が断絶しまって、スムーズな連続感がでない。要は、入室した会員が 歩いて小上がりのところに着いて、履物を脱いで、そのまま上がって寛げて布団が敷ければ良い。そこで、畳の代わりにカーペットかラグを敷いて、洋室との一 体感を強調しようと考えた。和洋室の和室の部分から機能を探り出し、洋室と一体化を実現しようとした。

京都・和室・畳としゃくし定規になる必要はない。世界のさまざまな事例を参考に、あるべき空間を考案し、それが会員の利用につながるなら採用する。「八瀬離宮」で考えた和室は、その後、箱根、有馬や鳥羽別邸、湯河原にも採用された。

このように戸井らが工夫を重ねて提案したモデルルームを、伊藤はさしてクレームをつけず採用と判断した。周囲の人は「これは珍しいこと」と評した。むろんそれで終わりではない。その後も、伊藤と戸井たちの間で切磋琢磨が続き、「離宮」の空間の「かたち」は具体化していった。

エントランスやレセプション、主食堂(メインダイニング)など、会員が目を引くであろう個所を中心に、メリハリをつけた。たとえば椅子は何回も絵を描いて は議論して図面を改訂し、中国・広州の近くにある工場に発注した。そこでプロトタイプを試作させ、また議論し改訂した。いよいよスケジュールが迫ってきた ので、現地工場に出張し、缶詰になって試作品をチェックした。2005 年の頃は、香港資本が広州付近に工場を作り、安い人件費で家具を製作して輸出していた。



2-4: グローバル京都に向けた意見交換

京都をはじめ訪れる観光客には、これが京都という既製のコース、ガイドブックにある誰が見ても京都が説得力を持つだろう。しかし京都を観光地ではなくたびたび訪れるリゾートの場合は、京都それ自身は革新的な街で、ゆえに1000年続いたことに関心をもつはずだ。平安・鎌倉・室町とその時代時代の変化に適応してきた。

適応するということは、みずからある部分を変えてきたことを意味する。したがって、京都らしい京都は必ずしも京都とは限らない。「八瀬離宮」の近くに修学院離宮(詳細は後述の資料編参照)がある。しかし、離宮であるからと言って、修学院離宮をモデルにしなくてもよい。これも地域とのかかわり方を示す重要な発想である。したがって、戸井は、居室の空間にも、生き生きとした考え方を持ち込もうとした。こうした考え方は、「八瀬離宮」が続く限り、受け入れられるという期待に通ずる。第三世代のつぎに登場する世代にも受け入れられる「空間」をめざす。それは、単に物理的な部屋の広さとか、あるいは単純に計算した年代とか、必ずしもそういう尺度では測れない。そのような意味あいを持たせようと努力した。願わくは、顧客が感動するような空間を追求したい。その結果、かっこよさ、魅力、驚き、高級感のある「空間」、つまりは「センスの良い高級感」の実現に近づく。

戸井はこのように考え、そして資料収集に努めた。世界にある著名なリゾートやホテルの空間を参考にした。世界のリッツカールトンやフォーシーズンズは、高級感とかグレード感を確かめるための「レベル」を提供してくれた。

たとえば、ある著名なホテルのエントランスと光のビームに、何か特別に感じる瞬間があった。それは単なる知覚から認識に変わり、記憶に蓄積される。むろん、それをそのまま受け入れているという意味ではない。

あるとき「八瀬離宮」のエントランスをテーマとするときその記憶は覚醒される。紙の上に「かたち」を描き、言葉を思い出しシナリオを重ねていくうちに、あるひらめきがあって、あらたな「かたち」が出てくる。収集した資料を参考に、「八瀬離宮」にふさわしい空間の案が議論される。仮にそれが具体化されたとしても、リッツカールトンやフォーシーズンズの高級感とグレード感には勝るとも劣るものであってはならない。ここに下限を設定する。設計者もプロデューサー同様に緊張を持続させなければならない。

戸井は代表の伊藤にさまざま提案する。提案をうけた伊藤は持ち帰り夜通し考えたのであろう。「空間」にかかわるシナリオや絵図をおさらいする。朝早く電話がかかってくる。昨日の提案に対して、あれは良い、これはダメというコメントが入る。このような情報の授受が繰り返し続き、その結果、「空間」の全容が形成されていく。

伊藤は戸井とのこうした情報授受の現場を指して「丁々発止」といったのであろう。施主とはいえ、日本で一流の事務所の最先端のプロを相手に、言いたいことを言うには、「勇気がいる」という。

【3】レストランとお庭の自慢

3-1: GMの演出

料飲出身のGM神山和人はことのほか、会員が満足する料理とは何かには神経を使う。その神山の話を中心に自慢話を紹介しよう。

京都という土地柄、日本料理には長い伝統と高い知名度がある。日本海からの海産物や京野菜等、京都で育んだ食材、たとえば、原了郭の黒七味、聖護院だいこん、麩・湯葉、京鴨、



京番茶(松田桃香園の商品で伏見・宇治茶の300年の歴史がある老舗)、伏見の酒蔵等を提供するなど、周辺のレストランとは差別化する。

18年1月に開催した「新春美食会」(キャッチフレーズはThe 京都～主役は京都の素材～)は、食材の多くを京都で調達したメニューを提供しようと試みた。悪戦苦闘しながら、楽しい企画とするよう努めた。19年には、京都らしさをさらに表現すべく、「海の京都、森の京都、お茶の京都」の食材提供を行う予定という。神山の企画は、日本の文化と四季を形にして「動きのあるお料理」「刺激的で飽きのこない」「やっぱり、京都がすき」と感じられるものを志向した。

とくに京料理には長い伝統と高い知名度があり、毀誉褒貶も激しい。京都らしい食材の多くは、たとえば鯖街道を経て流通した加工食品である。これに、周辺地域を産地とする現代の食材(鮮魚・青果・精肉)を加え、京都食材による献立を提供するなど、周辺のレストランとは差別化する。

「八瀬離宮」は、他の一般の宿泊施設とは異なり、スケールメリット(和製英語・規模の強み)を生かせる。和・仏・伊・中・鉄板各コーナーで、それぞれフルコースとスモールポーション(良質素材を用いボリュームを抑える)を用意しており、また、コンベンションでのブッフェがある。1週間連泊しても飽きない食事を提供できる。これはスケールメリットである。



3-2:ある夜のイタリアンレストラン「トラットリア ジョバーノ」

筆者らは、年末の某夜、「トラットリア ジョバーノ」を訪れた。「ジョバーノ」は giovane、伊語で「若々しい」という意味であろう。

シェフの加藤幸夫(画像下)はジョバーノ(イタリアン)・ボナキュール(フレンチ)両方を担当する。

推奨メニューは下左画像である。推奨コース「ヴェルジーネ(Vergine)」とは「処女」であろう。初々しいということか。それにしても、この献立には筆者にとって意味不明のカタカナがでてくる。その折、テーブルでは説明があったが、原稿を書く段になるとすっかり忘れてしまった。

そこで、後日、そっと内山敏彦(リゾートトラスト・総料理長・専務取締役・右画像)に伺ってみた。

バーニャ・ヴェルデは Bagna verde で野菜とハーブのこと、ファゴッティーニ Fagottini は小さな束は餃子状の pasta。スーゴ Sugo はスープ、スオ





Suo は代名詞でフォア グラを指すらしく、フォアグラ風味のソース。リングイネ Linguine はロングパスタの一種、グリツリア サルサ ディ ヴィノ ロッソは alla griglia con salsa al vino rosso で赤ワイン焼きとなる。

内山は 1947 年愛知県生まれ、「帝国ホテル」を経て、1968 年 21 歳で渡独。川端康成や高田力蔵らと知己があつて、仏のジャン・ドラベヌ(フランス 司厨士協会 長)に師事し、滞欧約 11 年に及ぶという。1979 年から同社に移籍し、現在は同社の和洋中ほか全レストランを仕切る。

2013 年、仏国農林大臣から『農事功労章 Ordre du Mérite agricole オフィシエ Officier』の叙勲があつた。

出典：<http://www.gc-uchiyama.jp/report.html>

3-3:シェフの加藤との軽い料理談義

以下は、シェフの加藤との軽い料理談義である。シェフのほか、キャプテンの田村秀人、アシスタントマネージャーの土取圭悟から伺った話を含めて構成してみる。

加藤幸夫は神戸御影出身。18 歳で料理の世界に入門。鳴門 9 年、白浜 5 年、琵琶湖 1 年 2 か月、そして 17 年 7 月から八瀬離宮に移った。

幅広い会員層に受け入れられる料理の提供は当然だが、たとえば、女性・シニア向けには、柔らかく、食べやすく。塩分控えめ、ただしコクがある料理を提供するというような配慮をする。余計なソースは使わず、軽く、丸く味付けする。翌朝、胃にもたれない、朝ごはんが美味しくなるような夕食を提供する。素材は地産志向で可能な限り京都の食材にこだわる。京都で獲れる野菜に奈良産の和牛、美食会「ザ・京都」では京都産の黒毛和牛も使う。会員にファンが多い。

「八瀬離宮」は良し悪しがよく分かる、目の肥える客が多い。好みに厳しい客もいる。昔のお客が来るのはとても楽しい。

フレンチは事前仕込み作業が多いが、イタリアンは素材重視で客が来てからの調理が多い。ただし近年は「仏・伊の差は少なくパスタ・リゾットの有無くらいか」と指摘する。仏・伊ともにレモン・バルサミコ・トマトをつかったソースを提供し、オイル・クリーム・バターでコクを出す。イタリアンではあまり使わなかったバター・ナッツ・香草(バジル・ウドなど)をも使う。

推奨コース

ヴェルジーネ
Vergine

30種類の野菜と香草でフラワーをイメージした
バーニャ・ヴェルデ

カサゴとフォアグラのファゴッティーニ スオスーゴ

まろやかに仕上げた
ホワイトマッシュルームのカプチーノ

リングイネでオマール海老とトマトバジル

黒毛和牛フィレ肉のグリツリア
サルサ・ディ・ヴィノ・ロッソ

パティシエオリジナルドルチェ

コーヒー又は紅茶

※ 仕入れ等状況により、提供期間・内容が変更となる場合があります。
※ こちらのコースで使用しているお米は国産です。
お食事のみのご予約も承っております (フリーダイヤル:0120-226-007)



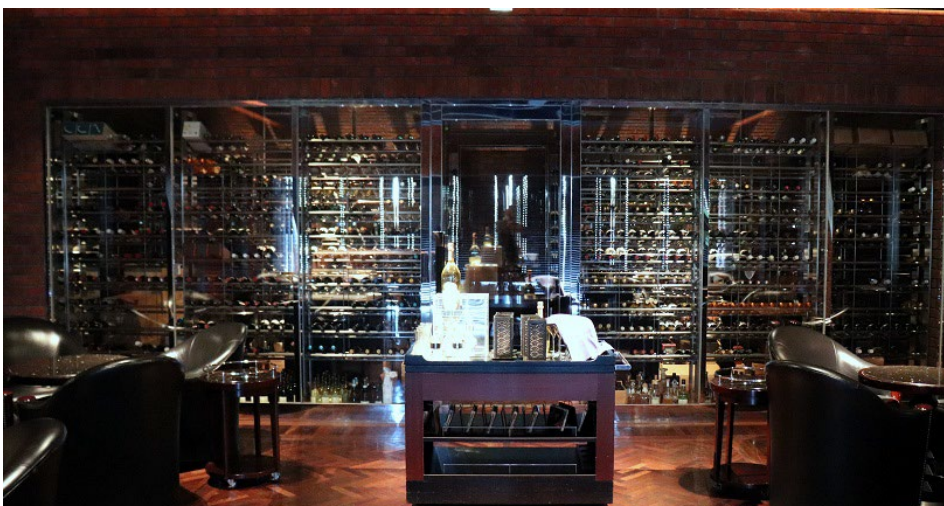
フレンチのほうがいっくさいな香草(タイム・セルフイーユ)を使う。きょうの料理にも 30 種の野菜を使ってみた。家庭では 30 種類はそろわない。ベルデ(緑色)のソースは、ハウレンソウ、バジル、ルッコラ、卵黄(コク出し)、大蒜、アンチョビを使う。見た感じがヘルシーである。さらさらしてサラダにあう。独特のきのこのスープは、9~12 月は冬菇(どんこ・肉厚のシイタケ)、1~3 月はマッシュルームというように季節ごとに変えていく。

新玉ねぎのスープにフォアグラ添えのように、スープに対し細かい泡を加えたりして、柔らかく、コクがあるスープ状の調味液を使って特徴をだすなど、日々に工夫する。お客さまに「京都にきたのなら、あのシェフ加藤幸夫の料理を食べたい、一度は加藤幸夫のレストランに行ってみよう」と言わせること。これが目標である。

しかしながら日本の「八瀬離宮」ゆえに、和食のほうが多いのは仕方がない。

イタリアンは圧倒的に女性好み。日によっては客は女性だけである。40 代を中心に若い人もいる。

飲み物はワインが多い。豊富に品ぞろえしたワインを約 1000 本貯蔵している。バー「カンティーナ」に、レンガ造りの蔵をイメージさせる空間にガラスで囲ったワインセラーがある。なかなか味わい深い雰囲気である。



3-4: お庭自慢

「八瀬離宮」には「真」「行」「草」と名づけられた三つの庭がある。掲記のレストランのうち仏・伊・中・鉄板は「行」の庭を囲む位置にある。和は後述するように「草」の庭を抱え込むように設けてある。



格式の高く整った「真」、その対極に位置する「草」、その中間の「行」である。それぞれが水の流れて緩やかにつながり、広大な敷地を潤す。石積みの壁に囲まれた車寄せに、氷の彫刻を思わせる噴水を据える。絶え間なく水を湧出させる。山々の稜線が覗き、静謐で緊張感あふれる空間を和ませようとする。

「真」はエントランスである。「行」の庭に浮かぶ浮島は「八瀬離宮」のシンボル。浮島の「えごの木」にスワロフスキーを装飾した。昼は日光に照らされキラキラ輝き、夜は四季で変化するイルミネーションに代わる。

「草」は日本料理「京都 華暦」の庭園でもある。園内の「きららばし」を渡ると「華暦」がある。初夏は蛍、秋は紅葉と自然を楽しめる。外見は純和風だが、なかに入ると現代的なテイストがあふれ、モダンなレストランに変貌する。壁一面をガラス張りにしたテーブルゾーンは開放感があり、斬新にデフォルメされた枯山水や印象的なアート作品、四季折々の表情を楽しめる。



婚礼が執り行われるさいは「行」の庭を使う。チャペルは普段立ち入ることのできない特別な「浮島」に設ける。「お二人の特別な1日をお二人だけの特別な空間で」とのことで、この「行」の庭は特別なステージに変身する。水辺にドライアイスを撒き、雲に見立てた「天空演出」がある。

付帯施設に「陶芸 和楽」がある。ろくろ、窯など一式がそろえてある。会員には自ら制作が可能である。インストラクターも常駐する。会員が絵付け等制作した作品を、当施設の窯で焼いて仕上げる。作品はお送りすることも可能だが、次回ホテル来館時のお楽しみでもある。他にキッズルーム、プライベートスパ、エステ…がある。

3-5:ランドスケープアーキテクトのこと

開発用地としての「京都八瀬」に興味を沸かせるもう別の要因がある。西方に傾斜し、かつ敷地内に河川(高野川水系・2級河川)があることだ。その河川を挟んださらに西側にも用地がある。京都の子供たちが見放した旧遊園地は、川を跨いだ敷地にあったのである。用地は比叡山麓で急峻な斜面の下、山頂に通ずる索道の駅付近にある。

上段から西に見れば日々夕日に恵まれリゾートとしては有利だ。西端の下段から東を見ると比叡山を見上げる。日本庭園で重視する「借景」である。ちなみに京都市眺望景観創生条例では、周囲の景観までを保護対象とする場合がある。周囲の景観を与件とした庭園である。

しかしこの庭園にはもっと積極的な意図があったように感じる。以下はアメリカの話である。まっさらな開発用地にスキー場を開発するとき「ランドアーキテクト」という概念を適用する。その場合は、開発目的はスキー場ではなく「スノーエリア」なのだ。ランドアーキテクチャーが描く一枚の絵が、絵画として上手か下手かはどうでもよい。その絵をじっと見つめると、10年間のキャッシュフローが目に浮かび、その事業の成否が予測できそうな内容が読み取れる。むしろスノーエリアとて全体を構成する部分なのだが、全体の与件としてのスノーエリアではなく、全体に自己を主張するような構想なのである。

90年バブルに至る80年代後半に日本で企画されたスキー場計画のほとんどは、借景はおろか、全体無視の索道計画の域を出ていない。これでは事業の行き詰まりは必至であった。

「八瀬離宮」の「真・行・草」の庭園は、比叡山を借景とした単なる受け身の庭園ではなく、むしろに叡山に何かを主張するような「かたち」があり、そこに会員を誘ってリゾートの「すがた」を作り上げる躍動がある。そのシナリオをプロデュースしたのは伊藤であるが、その課題を解いたのはだれなのか。その問いに戸井は「ランドスケープ・アーキテクト」の存在を話題にした。

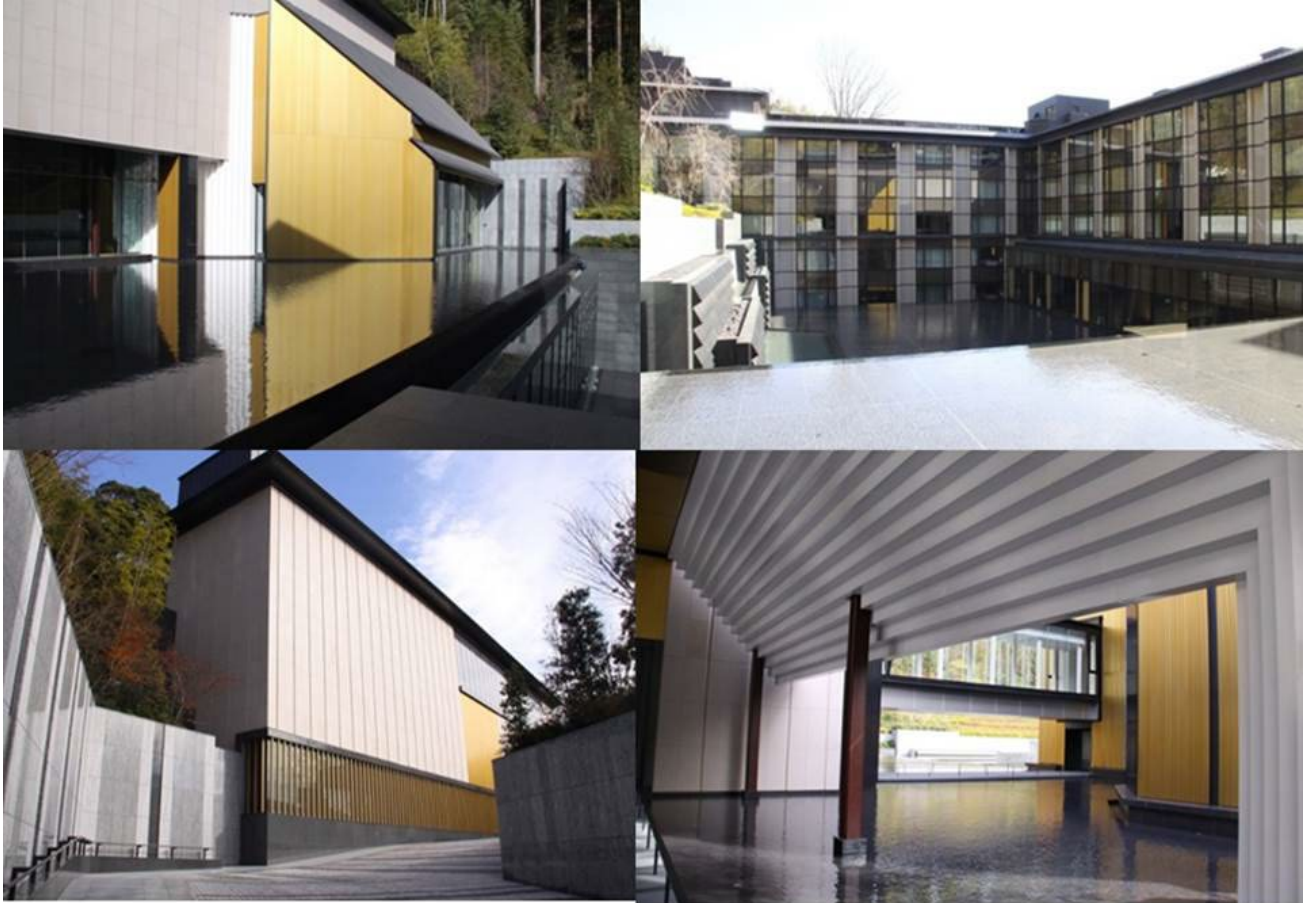
この場合、「真・行・草」の庭園自体が何某か収益を生むわけではないが、この庭園が会員を迎え・和ませる機能を持つゆえに、会員はこのホテルが存在するかぎり繰り返し訪問する。その可能性が次世代・次々世代の会員に伝わり、持続的訪問を促すなら「八瀬離宮」はたしかに安泰なのである。



【4】エクシブ湯河原離宮と設計

4-1: 湯河原離宮のかたち

旧天野屋は完全に解体され、変身して「エクシブ湯河原離宮(以下湯河原離宮)」が登場した。同社広報によれば、総事業費約 263 億円、総客室数 187 室で 2017(平成 29)年3月に開業、設計監理は(株)観光企画設計社、(株)安井建築設計事務所、(株)日建スペースデザイン、施工は鹿島建設である。



エクシブ湯河原離宮 外観・内観

「湯河原離宮」は旧天野屋とは似ても似つかぬ「かたち」になった。1000 年史の京都においてさえ「グローバル京都」を取り入れようと考えた。

旧天野屋がいかに銘木をつかっていたとしても、その空間が今の時代に提供できるサービスはせいぜい建築史的資料でしかない。「記録として図面を残すか…」という町役場のかつてのコメントは、的を射ていたことになる。

旧天野屋で良かれとされた空間を参考にしたのでは、現代の会員のニーズには応えられない。それならば、旧天野屋の跡地に、「センスの良い高級感」、「Villa d' Este や Ritz Paris に凝縮された *élégance* や *eleganza*」を、どう表現しようとしたのか。及ばずながら追跡しよう。

4-2: リゾートトラストと観光企画設計社

観光企画設計社(以下 KKS)は、XIV 第一号の伊豆から「湯河原離宮」に至るまで、軽井沢、山中湖、蓼科、鳴門、浜名湖、箱根離宮、東京ベイコートなど、多くを設計している。

KKS の出自はユニークである。ホテルオークラは大成観光(大成は旧大倉財閥創始者大倉喜八郎の戒名につけた院号)が経営したが、その設計部長として就任した柴田陽三が、同社を退職した後に創立したもので、ホテルに特化した設計事務所だ。

その設計は 5 名からなるチームで、中心は谷口吉郎(東工大教授で東宮御所を設計)であった。その概要が一段落した段階でチームは解散され、9 名からなる新 チームができ、その事務局役の設計部長に柴田陽三が選ばれ、坂倉準三(東大工卒後渡仏しパリエ大からル・コルビジェに師事)事務所から移籍した。この人事 を実行したのは岩田岩次郎(日綿ニューヨーク支店から数奇な運命を経て終戦後 GHQ のもとで財閥解体作業に従事、後に大成観光社長などに就任)である。柴 田は 1962 年にホテルオークラがオープン後、札幌ロイヤルホテルの設計を依頼されるに及び、KKS を設立し、50 周年を迎える 9 年前の 2003 年に死去している。

KKS の行動規範は不易流行(constancy and change)。変化に適応しつつ本質的な物を忘れない、新味を求め変化を重ねるというような意味である。KKS の企画、2 番目の「K」の意味は、単に絵 を描くことではなく、ホテル建築の採算性をまず考えてから設計に入るという手法を指している。これは極めて重要なことで、ホテルという固定資産の塊が、流動化していく長い年月が耐えられるか、その基本の考え方を提示している。

KKS はとくにアジアに注目、アジアの成長とともに伸びていく意識を明確にしている。これからは日本の市場に参入するフォーシーズンズ・ペニンシュラ・ シャングリラはじめ5スタークラスのホテルが続き、逆に、ホテルオークラや JAL ホテルのように海外展開も盛んになる。かかる国際的事業環境のなかで、KKS はユニークな地位を占めていくであろう。

1953 年に開業し、札幌ロイヤルホテル(建築・室内)、川奈ホテル増改築(総合設計監理)、ホテルニューオータニ(基本設計コンサル)、インドネシアのホテル(室内設計)、赤倉観光(建築室内設計)など、オークラ系の仕事が多かったが、現在に至るまで、日本国内 120 件、中国 95 件、その他 海外 70 件となる。このなかには長年注力した XIV や郭鶴年のシャングリラホテルが含まれる。

かくいう筆者もささやかながら、上海の花園、シンガポールやクアラルンプールなどのシャングリラや、濟州島やソウルの新羅などオークラ系のホテルは、何度 か利用させていただいたことがある。柴田の息がかかっていたであろう。「インテリアデザインの多様な新しい展開」のところで、鳴門・山中湖・軽井沢の各 XIV サンクチュアリヴィラや東京ベイコート倶楽部のフロントの空間を「ヨーロッパアンオーセンテック」、「箱根離宮」を「スタイリッシュモダン」と分類し 例示されている(出典:『KKS GROUP 50th ANNIVERSARY』建築画報社、pp28-29)。



4-3: 観光企画設計社が提案した「尾形光琳」



観光企画設計社(以下 KKS)が湯河原を議論したのはリゾートピア箱根の改修プロジェクトに携わった折という。この改修は、2013年1月～2013年4月、総客室171のうち97室を改修、KKSの設計、浅沼組・高島屋スペースクリエイツ・きんでんが施工した。

築後29年維持されたオーセンティックなコンセプトのもとで、客室ハイグレード化と露天風呂新設、大浴場レイアウトの見直し、エステ・カラオケ・ショップなどアメニティ施設、大浴場への館内最長動線約100mの意匠考案を行ったとある(公益社団法人国際観光施設協会から要旨抄述)。このとき、伊藤與朗が現地を訪れ、湯河原を話題にして、ブレーションストーミングになった。

以下はKKSの語るところだが、湯河原は良い温泉があって芸術家や軍人が長逗留し創造的な仕事をした。創造的文化があるところだ。それを認めたくえて、日本人の「侘び」「寂び」を、織田信長に倣って破壊的創造をして、あたらしいものが出来ないかだろうかというような問題提起だった。

これに対し、KKSは、京都の町家の出自で自由に芸術活動をした、江戸時代初期の扇絵職人の俵屋宗達や、宗達に影響を与えた元刀剣鑑定の本阿弥光悦を持ち出した。

光悦は徳川の治世に批判的な後水尾天皇の支持があった一方で、1615年に徳川家康から用地を拝領し鷹峯(京都市北区)に「光悦村」を設け移住した。2015年には400年を迎え記念行事等も盛んに行なわれた。

また、江戸中期に出た尾形光琳は宗達に私淑、後年一連の作風を「琳派」と呼び、1873年ウィーン万博に出展の「紅白梅図屏風」を通じて欧州画壇に知られ、たとえばグスタフ・クリムト(Gustav Klimt, 1862～1918年、オーストリア画家)の作風や、当時のパリで発生したジャポニスム(Japonisme)を通じアール・ヌーヴォー(Art Nouveau)にも影響を与えた。



こうしたことを話題にすれば、アール・ヌーヴォーからアール・デコ(Art Déco)に及び、パリの草花モチーフからニューヨークの幾何模様へと広がり、不況を経て登場するモダニズム建築と、その批判に使われるクラシック回帰的手法にもアール・ヌーヴォーやアール・デコが好みに応じて使われ、ポストモダンに及び、夜を日につないでも尽くせず、現代建築とモダニズムを「総論」したであろう。その結果、「琳派モダン」というコンセプトの萌芽が出てきた。

急傾斜と藤木川にはさまれ、かつて文人墨客に好まれた旧名門旅館の跡地に生まれるリゾートの空間に、「琳派」の躍動を取り込む。その可能性を伊藤はKKSに問うことになった。

リゾートトラストの総資産 4,216 億円(第 44 期連結貸借対照表)の信用の表象である伊藤としては、湯河原の空間がまだ見ぬ会員に対し提供するサービスのグレードや具体的内容を決定する職務がある。その提供は、極めて長期にわたるし、その間、あらたな世代の会員が登場する。単に琳派の作品の一部や作風をコピーし、貼り付け(ペースト)すれば済むものではありえない。

4-4:「琳派モダン」

琳派に絵画や書・陶器があっても、琳派の建築やインテリアはたしかにない。さりとして、その辺にある平凡なものや、どこにでもありそうなものではなくて、見たことのないもの、未来志向のものでなければならない。

伊藤は求めるのを観光企画設計社(以下 KKS)は「和でモダンしかし洋ではない」「洋を感じさせる和」と解釈したのであろう。切妻という屋根のかたちやモアレ現象を多用して、モダンな和を表現した形跡が見られる。



もともと琳派は京都の話題だから、むしろ「八瀬離宮」を彷彿させる。一方、この湯河原近隣で琳派といえば熱海の MOA 美術館が著名だ。「紅白梅図屏風」(昭和 31 年 国宝指定)を所有し、尾形光琳の二条新町屋敷(復元)や、江戸琳派の酒井抱一の作品がある。二条新町屋敷とは光琳が晩年をすごした京都の居宅で、光琳自筆の図面や大工仕様帖等の資料を基に MOA 美術館の敷地内に復元した 18 世紀初頭の再現建築物である。「紅白梅図屏風」はこの屋敷の画室で描かれたという。

なぜ湯河原で琳派なのか。これは KKS の宿題でもあったであろう、旧天野屋には長々と逗留した竹内栖鳳がいた。横山大観に並ぶ日本画壇の大看板である。彼は良いものなら何派の技法でも取り入れる幅のある作風だった。また、湯河原町立の美術館は平松礼二の作品を常設展示していた。



そのうえで KKS は色使いにこだわり提案した。リゾートトラストの広報(2014 年 10 月 8 日付)によれば、「琳派モダン」を、「華麗な色彩と大胆かつ繊細な画面構成とリズムカルなデザインが特徴」で、「金箔、漆黒、朧(おぼろ)銀、白胡粉(ごふん)の 4 色をテーマカラー」とし「琳派を現代的なデザインに昇華」させ、「豪華で大胆かつ斬新な“琳派モダン”を創出」と説明している。

つまりは、現代的なデザインに昇華させて、「湯河原離宮」の空間に、豪華で大胆かつ斬新な“琳派モダン”を構築した。ここまで検討が重なれば、「昇華」への作業は自由奔放に思考されよう。琳派の元祖の作品はもとよりだが、琳派に影響されたという欧州画壇の作風も参考としたであろう。

たとえばクリムトの作風が伊藤の頭脳を刺激して、館内のある空間を構成させ(この過程がまさにクリエイショ

ン)、イタリアンレストランやスパの入り口にあるエステになったかもしれない。しばしば訪れる会員に、その都度、しかも末永く、語りかけることになる。

【5】琳派レストランと名湯じまん

5-1: Inbound の少ない湯河原

湯河原にはこれといった「ウリ物」「目玉」はなく、箱根・熱海ほどの知名度はない。ちなみに湯河原自体でも Inbound 客(訪日外人客)は少ない。当湯河原離宮には Inbound 客はいない。それだけに落ち着いた良さがある。

総支配人の渡邊博司にヒアリング(2017年12月25日)すると、「3月31日に開業して9か月を経過した」「来客層のグレードは高い」という。

会員の多くは都内かその近郊に居住するので、湯河原には1~2時間で到着してしまう。「東京区部や横浜はじめ関東の富裕層でおもにご夫婦が多い」「カレンダー通りの消化が進んでいる」のもうなずける。平日は、「会員の夫人が仲間を誘っての女子会を見かける」ほほえましい光景を見かけるのも、ある意味湯河原らしいといえよう。



昼間はあまり目立たない藤木川も、夜、ライトアップすると目立つ。館内各レストランの内装も、飽きが来ないように工夫した。和食は漆黒+金箔、イタリアンは琳派の影響を受けたグスタフ・クリムト(19世紀末帝政オーストリア・ウィーンの画家)をモチーフに、また、中国レストランには中国風のベーシックなフォルムを「琳派」で表現した。

各レストランの食器も採否の基準は「琳派」を基調にした。洋食のオードブル用には10万円/皿もある、1個9千円~3万円クラスのものも多い。洗浄には神経を使う。

料理は和洋中が同じ基調にならないように、また他の「離宮」と重ならないように、異なるイメージで違った楽しみを打ち出すようにしている。和は素材を生かし、和食らしさを出す。

中国料理の料理長は京都・神戸で修業し40歳、広東料理を基調に、乾貨と地元素材を組み合わせオリジナルにも拘った料理。イタリアンは野菜を多用し、色彩など五感で楽しめる料理になるように工夫し、ことに女性客、関西客に好評である。

通常規模の旅館では使いきれない素材を、地元のみならず、全国・欧州から取り寄せて、料理に反映させ、特徴をだすようにしている。

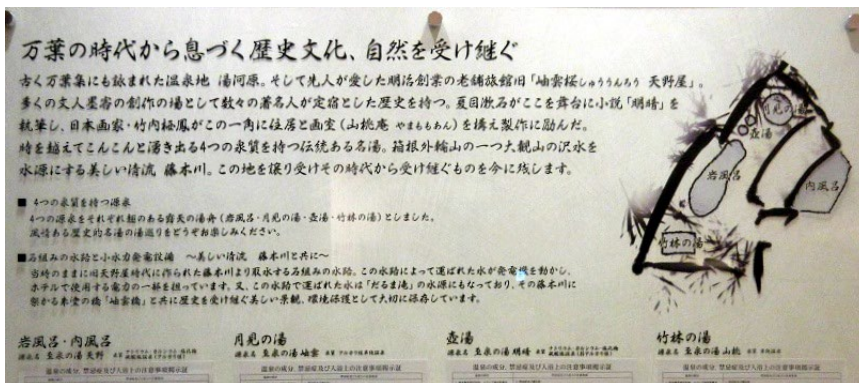




5-2:なんといっても湯河原きっての源泉

湯河原は温泉の泉質が充実していることで、昔から評判が高かった。明治28年刊の湯河原案内にも繰り返し紹介されている(後掲)。

ちなみに、すぐ近く(湯河原・宮上)に、細川護熙(1938年～、陶芸家・元総理・熊本県知事)邸がある。これは湯河原の温泉が東日本随一の泉質という評判に誘われて、細川護立(1883～1970年、侯爵、宮内省宗秩寮審議官)の代に建築したものである。その湯河原で湯河原離宮の温泉は随一である。天野屋から引き継いだ最大の資産といえよう。



温泉は好きだが、大浴場は嫌いという会員のため、全187室中91室に温泉を引いている。日々湯抜きしてフィルタを消毒している。

湯河原の温泉は古来から高い評判を得ているが、それを堪能していただくには、ハウスキープ(客室の維持清掃)は重要だ。広い客室も単に広いだけでなく、自信をも

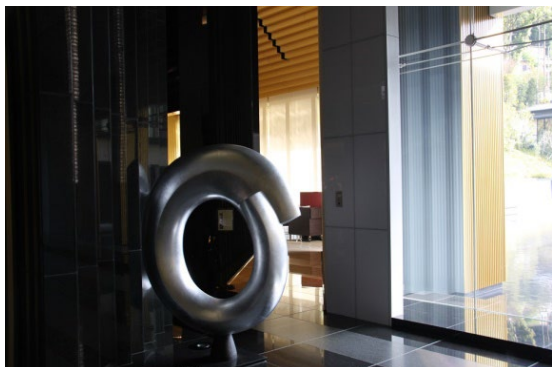
って会員をお迎えできるように、キープされなければならない。「湯河原離宮」の大浴場には4種類の温泉があるので、「温泉巡り」をお楽しみいただける。エステは関係会社に委託している。

会員の夫人や令嬢が多く、昔からのある会員は、家族で来館され母子で2時間過ごされる。50～60歳代が多い。費用は2～3万円。そして当館には、ラウンジ、ショップ、そして現在おもにバイキング会場として利用しているボールルームがある。婚礼やパーティーとしての利用はこれからの課題である。

旧天野屋から引き継いだものに、藤木川にかかる朱塗りの橋がある。名付けて「岫雲(しゅううん)橋」。岫は万葉集(3148番)の歌にも出る漢字。訓は「くき」、おそらく山の頂きから雲が沸いてくる様であろうか。

国主として肥後に初入部(1632年)した細川忠利が、古来熊本を支配した菊池家の初代則隆の建立(1071年)になる天台宗春日寺を「岫雲院」と改称させた。おそらくその由来であろう。

小倉 39 万石から肥後 52 万石に出世し、外様の細川が江戸時代を生き延びえたのも、この忠利が賢かった故という。あの「三日天下」の明智光秀の孫にあたるが、「岫雲橋」は、存外、縁起の良い橋かもしれない。とすれば天野屋から引き継いだ第二の資産となろう。



【6】発想の源…ヴィラデステ

6-1: ヴィラステがあるコモ湖畔

先の伊藤與朗へのヒアリングで、ヴィラデステは、リゾートトラストのその時代におけるホテルを構想するにあたって、さまざまなヒントを引き出すモデルの役割を果たした。

そこで、八瀬離宮構想当時から約 35 年も前に、伊藤勝康（現会長）と見たヴィラデステ (Villa d' Este) とは、いったいどのような存在なのか探ってみよう。

シルク関連事業者のヒアリングで何回かコモを訪れているので、筆者もこのホテル+庭園がコモ湖畔にあることは偶然に知っていた。

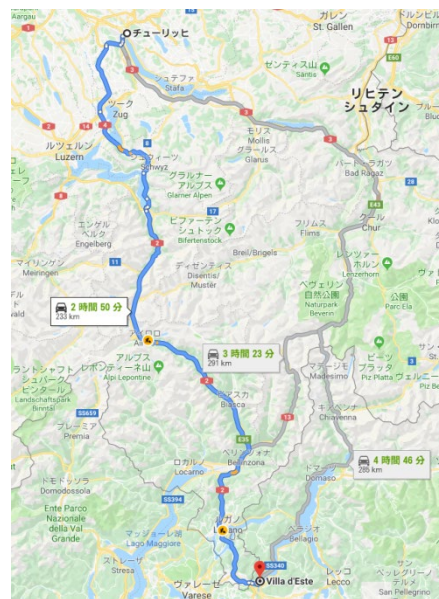
スイスの領土を北から南に向かう幹線道路アウトバーン2号線を南下して、スイス国境をイタリア側に抜けるとマスリアーニコという人口 3300 人の町があり、そこから 3~4 キロ下るとコモ湖がある。湖岸には、その所有者に変遷があるにせよ、かつての諸国の王族・貴族や、新旧の資産家や著名人が登場したヴィラ (Villa) がいくつかあるが、ヴィラデステもそのひとつである。

(注) イタリア語の Villa をいまは一般に「別荘」と訳すが、本欄では「貴人の領地や避暑地に設けた大邸宅・別邸」の意味で使う。古代ローマ語でもあり、「領地の農地を守る要塞+領主の家屋」のような意味もあった。

...

このヴィラデステの所在地チェルノッピオ (Cernobbio) は、コモ市 (ロンバルディア州都) の隣にあり、人口 6800 人の町 (自治体)、その距離は 1 キロほどである。

コモ市は人口 8.3 万人、観光保養都市で、歴史は古く紀元前 7 世紀まで遡れる。その伝統において京都に比べても遜色はない。コモもまた、京都の西陣同様に、シルクの製織や染色で著名な産地である。前世紀のある時期 (たとえば 1980 年代)、ことに染色では、パリ・ミラノのファッション界に強い影響力があった。





また、ヴィラデステも 16 世紀からはじまる。その歴史において、京都八瀬の近くにある修学院離宮(本来の名称は御茶屋)にも匹敵しよう。ただし修学院離宮には人騒がせな話題や事件は何も聞こえてこないが、ヴィラデステには山ほどある。この点で大いに異なる。(注) 修学院は修学院村という地名。離宮は明治維新後の政府が命名した非伝統呼称。本来の名称の「御茶屋」はむしろイタリア語の villa に近い。なお、Villa d' Este は素直に読めば「東の別邸」だが、d' Este には別の意味があるのかもしれない。

代表の伊藤與朗や会長の伊藤勝康が 1972 年ごろに見たヴィラデステは、ただの絵葉書ではない。500 年余にわたって貴人や著名人が好んで利用し、いわば手垢がつき、時代に適応すべく改修され、現代に伝わるヴィラなのである。

当時、そこに伝わる *élégance* や *eleganza* は、いまよりも本格的であり、「センスの良い高級感」に対して、さまざまな手掛かりを与えたであろうことは十分予想できることである。

(注) Villa d' Este は高級ホテルとして営業している。季節や日柄により変動するが、標準日の平均的な室料は 10 万円~/泊。最高クラスの客室で 40 万円/泊である。

La bellezza senza tempo vive qui

Per secoli dimora dell'aristocrazia, dopo principesse, marchesi, sultani e zar, dal 1873 è un elegante resort a cinque stelle, un albergo di charme tra i più celebrati al mondo.

Lusso, vista lago e arte del viver bene in un'esperienza suggestiva che riempie gli occhi e ispira la mente.

— SCOPRI DI PIÙ



(注)この画像は Villa d' Este のホームページから <https://www.villadeste.com/>

6-2: もとは枢機卿そして英ジョージ 4 世妃らの別邸

ヴィラデステは、1442 年にジェラルド・ランドリアニ(コモ司教・1437~1445 年)が設立した修道尼院を約 100 年後に解体したことにはじまる。おそらく 1560 年頃、この敷地にトロメオ・ガリオ(Tolomeo Gallio・枢機卿・1527~1607 年)が、生まれ故郷の当地に夏季の別荘を建てるため、その設計をペツレグリーノ・ティバルディ

(Pellegrino Tibaldi, 1527～1596 年)に依頼した。彼が提案した Villa と 25 エーカー(10 万㎡)の庭園は、1565 年に施工、1570 年に竣工した。

ガリオは枢機卿ではあるが、マルティラーノはじめ各地の司教や教皇グレゴリー13 世の國務長官を歴任、また、1595 年にアルヴィト郡を買収して公国 (Duchy of Alvito) とし 1806 年まで支配した。なかなかのやり手のようだ。ヴィラデガルボ(Villa del Garovo)と呼ぶこの夏の別荘を様々な社交に活用したのである。

設計者のティバルディは壁画家・建築家で、ガリオの別荘の仕事の後、フェデリーコ・ツッカリ(Federico Zuccari, 1542 年～1609 年)の後任として、スペイン王の宮廷画家に就任した。フェリペ 2 世がツッカリに命じたエル・エスコリアル修道院の装飾を嫌ったゆえである。

枢機卿のガリオの死後、この Villa は家族が相続したが荒廃、1750 年頃にはイエズス会の研修施設になり、さらに有爵貴族のあいだで売買され、1784 年、カルデラリ侯爵(Marquis Calderari)が取得、大規模な修復や、海にリカースの神(ギリシャ神話)を投げつけているヘラクレスの彫像、寺院、公園を増設した。



同侯爵の死後、妻のヴィットーリア・ペルソ(Vittoria Peluso・スカラ座バレリーナのラ・ペルーシナと同一人物)は、ドミニコ・ピノ(Domenico Pino、伯爵・ナポレオン政権の軍務大臣・第 15 師団長・ロシア侵攻に従軍敗戦)と結婚、そのこの Villa に愛の証として模擬要塞を建て、そこに士官 候補生を集め模擬演習を行い、花火大会や宴会を開催した。

1815 年、ブランズウィック侯爵(旧ドイツ帝国内ブラウンシュヴァイク公国領主)の娘のキャロライン(Caroline Amelia Elizabeth; 1768～1821 年)が所有する。後の英ジョージ 4 世(George Augustus Frederick; 1762～1830 年・末期は肥満と精神疾患)と婚姻しウェールズ王女となるが離婚する。夫妻の娘シャーロット妃の早死、夫妻の離婚・王位継承騒動あるいは彼女の不倫疑惑、英国民による支持などは煩雑なので割愛するが、西欧史にはいくつか話題を提供した。

さて、キャロラインは離婚後この別荘を住居とした。ただし、この庭園が不安定な形状であるとして、これを完璧にするべく英国風庭園に改造を進められ、改め てヌアヴァヴィラデステ(Nuova Villa d'Este)と改名された。ここではじめてヴィラデステという名前が登場する。

6-3:ハイエンドなリゾートホテルに改装



キャロラインの死後 50 有余年を経て、1873 年にこのヴィラは一般の上流階級(貴族や事業家など)向けの、ハイエンドなリゾートホテルに改装され、現在に続いている。施設の名称はヌアヴァヴィラデステからヴィラデステ(Villa d'Este)にかわった。ローマ近郊チボリにある著名なホテルのヴィラデステにあやかり相乗効果を得るためである。

修道尼院から数えて 500 余年目、この楽園ともいべきリゾートで、数奇な事件が起きた。1948 年 9 月 15 日、ヴィラデステで祝日ディナーが開催されていた。ベレンタニ伯爵の夫人ピア・ベレンタニ(Pia Bellentani)が、夫人の恋人であるカルロサッキ(Carlo Sacchi・富裕なシルク事業者で既婚・二人の子供の父親)を殺害。ブラウニング製半自動銃 37 口径フェギュラールギュル銃 (Fegyverzyar)、9 mm弾が使われた。夫人が精神疾患であったという。

悲劇の一方で、多くの有名人カップルが、結末はともかく、ヴィラデステで素敵なラブストーリーを生んだ。… Elizabeth Taylor(女優)・Nick Hilton(ヒルトンホテル創始者コニーの長男)、Rita Hayworth(女優)と Orson Welles(映画監督・脚本家)、Clark Gable と Carol Lombard(ともに俳優)、Ava Gardner(女優)と Frank Sinatra(歌手)、そして Aristotle Onassis(海運業者)と Maria Callas(オペラ歌手)、そして Woody Allen(映画監督)と Mia Farrow(女優)など…。

米経済誌で例年春の世界長者番付で有名な Forbes 誌は、2009 年 6 月ヴィラデステを最優秀ホテルに選んだ。ニューヨーク拠点の世界的旅行雑誌で読者 480 万人という Travel + Leisure 誌は欧州 15 位、世界で 69 位のホテルとしてランクした。

また、例年 4 月にビンテージ車やコンセプトカーの優雅さを競うコンクール (Concorso d'Eleganza Villa d'Este・1928 年～)、9 月にミラノの有力なシンクタンクであるヨーロッパ・ハウス・アンブロセッティ (The European House - Ambrosetti) が 1975 年以来開催する国際経済フォーラム (Ambrosetti フォーラム)がある。

以上のような経緯を経て現在はハイエンドな宿泊・会議施設として営業している。



6-4: ヴィラデステと離宮シリーズ

コモ湖に浮かんで見えるヴィラデステ。それはただ浮かんでいるのではなくて、500 余年にわたって、貴人により使われ、ときに改修された。もともとの設計者は王室御用だったし、時代によっては利用者自身が王族、ないしそれに近い者だった。こうした利用者がヴィラデステに求めるものは「センスの良い高級感」の塊といっても良い。

ヴィラデステは美しい存在だ。
あまりに美しいので真似てみたい、
だから、描いてみたい。

こうした現象は、いささか大仰かもしれないが、ミメシス(ギリシャ語 mīmēsis)にとよぶ。プラトンやアリストテレス以来の諸説があり、美学美術史の教科書に登場する。あえて「模倣」と訳されたりするから、デッドコピーと誤解されがちだが、むろんまったく違う。ものごとの「本質」の模倣なのだ。

…

ヴィラデステと京都八瀬離宮はどこでつながりがあるのか。ヴィラデステで 500 余年培われた「センスの良い高級感」を、何らかの形で、京都八瀬離宮のなかで活かしてみようということと推察する。

むろんそれはマル写し(デッドコピー)ではない。立地も利用者も業態も異なるのだから、ヴィラデステのある部分を抉り出して、八瀬離宮に埋め込んでみる。たいていの場合、ちぐはくになるだけだ。望むべくは、八瀬離宮のどの部分をとっても、また、全体を見渡しても、ヴィラデステ並みの「センスの良い高級感」、いわばフランス語でいう *élégance* が存在することが、これが伊藤與朗のねらいであったと思われる。

ヴィラデステの建物は、イタリアの後期ネッサンス建築の影響を受けた貴族の邸宅+庭園である。庭園は当時の所有者に意向でイギリス風に改造された。この建物をネオクラシックと呼ぶ向きもある。調度品、絹の織物のドレープ、リネンのシーツ、油絵などは 500 余年の伝統の影響を受けている。

...

ただし、ヴィラデステは 1873 年からホテル事業になった。そうなると、古典に浸っているだけでは破綻する。どこかに合理性が必要だ。結局、ヴィラデステの空間とその客の動きがみせた「たたずまい」、そこから発見できる「センスの良い高級感」は、ルネッサンス+モダンと解釈できるであろう。19 世紀に花咲くパリファッションの *élégance* の源流がイタリア・ルネッサンスあるとも考えられる。

少なくとも、伊藤與朗は、修学院離宮をモデルにしなかった。コンセプトは土地になじまなければならないとしたが、なじみすぎてはつまらなくなる、ここでネタが必要だと。

京都八瀬離宮のなかみを豊かにしたのは、コモ湖畔のこの Villa だったと推察する。

【7】もうひとつの原点…Ritz Paris

7-1:「王子が自分の家で望むことができるすべてのエレガント」を提供

リッツパリ(Ritz Paris)は伊藤與朗がもうひとつモデルとして提示された。しかし、簡単な年表を作成するにも、その作業は筆者の手に余る内容がある。

このホテルは長い歴史と豊富な登場人物、年代物の什器備品にあふれ、リッツパリを経営史や観光的に理解しようと思ったら、ベルエポック前後のフランス(のみならず西欧)の社会経済事情や建築史などからも検討する必要があるからだ。この作業を放棄したいのはやまやまだが、行きがかり上、進めることにする。



しかし、興味津津の話題は尽きない。

ココシャネルがこのリッツパリに 30 年も「下宿」して、400M 先のカンボン通りにあるシャネルのメゾンに「通勤」するのは理解できる。しかし、アメリカの著名な小説家のヘミングウェイもまたこのリッツパリに「下宿」した。気まぐれにしては透徹しすぎている。事実上の「会員制ホテル」だったのかもしれない。

また、これほどのホテルでも、創業者(César Ritz)の後継者(次男 Charles C. Ritz)の高齢化にともない、顧客もまた高齢

化して、業容が退潮した。後継者未亡人は創業 80 年余にしてわずか 2000 万ドルでエジプトの実業家 (Mohamed Al-Fayed) に売却したとある。

本当なのだろうか。

そして、その事業家の子息が英ダイアナ妃の交通事故に同乗して死亡するなどという出来事を生む。いわば社交界のできごとだからありうるけれども、セザール・リッツは予期していたのであろうか。

深みにはまるときりが無い。したがって、筆者としては Wikipedia (仏・英・日版) の焼き直しくらいに留め、資料としてリッツパリ略史を後掲した。また、内部に興味のある方は、たとえば、画像データベース Pinterest など検索していただきたい。

以下、伊藤與朗が、このリッツパリを、モデルとして高く評価した意味を、推測してみようと思う。彼の言う「センスの良い高級感」が、このリッツパリに具現化したその源に、筆者の推測で向かってみたい。

1: 1898 年、セザール・リッツ (以下リッツ、ホテル名はリッツパリ) は現用地を探したが、リッツ・シンジケートは価格と面積に難色を示し、結果として、リッツの個人事業になったこと。よって、リッツは事業の進め方について完全な裁量権をもち、そのうえでこのホテルの基本方針 (いわばコンセプト) を決めた。

2: 什器や備品の選択も、リッツの感性を基準にして、一つひとつ吟味し、当時超一流のインテリア・デザイナーに指示し、特注も含め調達した。

3: 改修 (リッツパリは既存建築物の改修) もリッツのコンセプトに従い設計者を選択する。リッツはなんとアール・ヌーヴォーを主張したが、選ばれたデザイナーはアール・ヌーヴォーはバンドーム広場に似合わないという。「自ら雇った設計家と意見が対立、数ヶ月に渡る議論の末、折衷案により新しいスタイルを確立したとある。

この建築家は、リッツより 10 歳若いチャールズ・ムエス (Charles Frédéric Mewès) であろう。彼は、18 世紀フランスのエレガントにこだわり、アールヌーボー様式・現代様式を避け、ルイ 16 世の論理的、空間的対称性を志向する建築家だった。

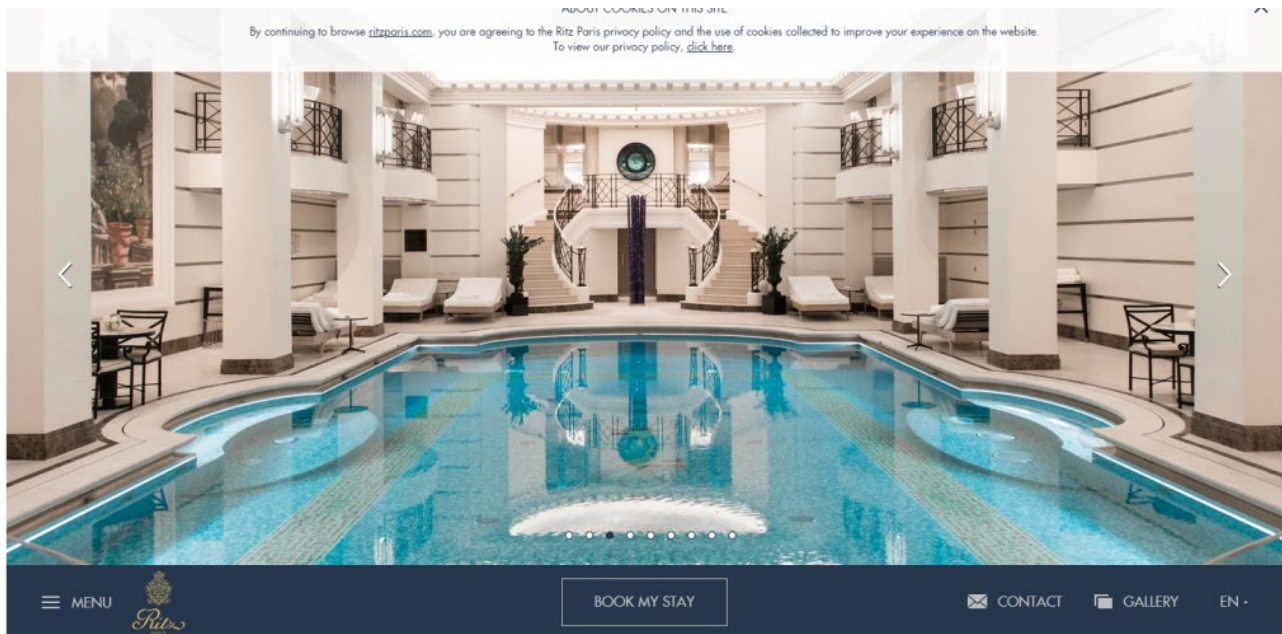
英国王立建築家協会から、「フランスの良き知的資産を蓄えた本格的な人物 (The true type of the French intellectual of good stock) と評価された。Pinterest で作風が豊富に検索できる。そして両者は折衷案にたどり着く。このときのリッツの新進気鋭建築家への対峙は、筆者から見ればホテル経営者の鏡だと思う。

4: リッツがムエスに与えた指示のなかに、裕福な顧客に対し、「王子が自分の家で望むことができるすべてのエレガント」を提供することがある。

「He stated that his purpose for the hotel was to provide his rich clientele with "all the refinement that a prince could desire in his own home."」出典: 英語版 Wiki

注目すべきはこの文中の refinement である。あえて、エレガントと訳したが、refinement は不可算名詞 洗練、上品、高尚、優雅 (研究社 新英和中辞典) となる。たとえば、a wine of great delicacy and refinement は、素晴らしい繊細さと洗練されたワインとなる。

伊藤與朗のいう「センスの良い高級感」とは、この refinement の意味を、人間社会にあてはめたものかもしれないと想像した。ただし、リッツ本人がこの単語を使ったかどうかは定かではない。本執筆者(大谷)の調査不足である。



What's new at Ritz Paris?

出典:いくつかの言語の Ritz Paris のホームページから。https://www.ritzparis.com/1en-GB 他

7-2: 会員制のような高級ホテル

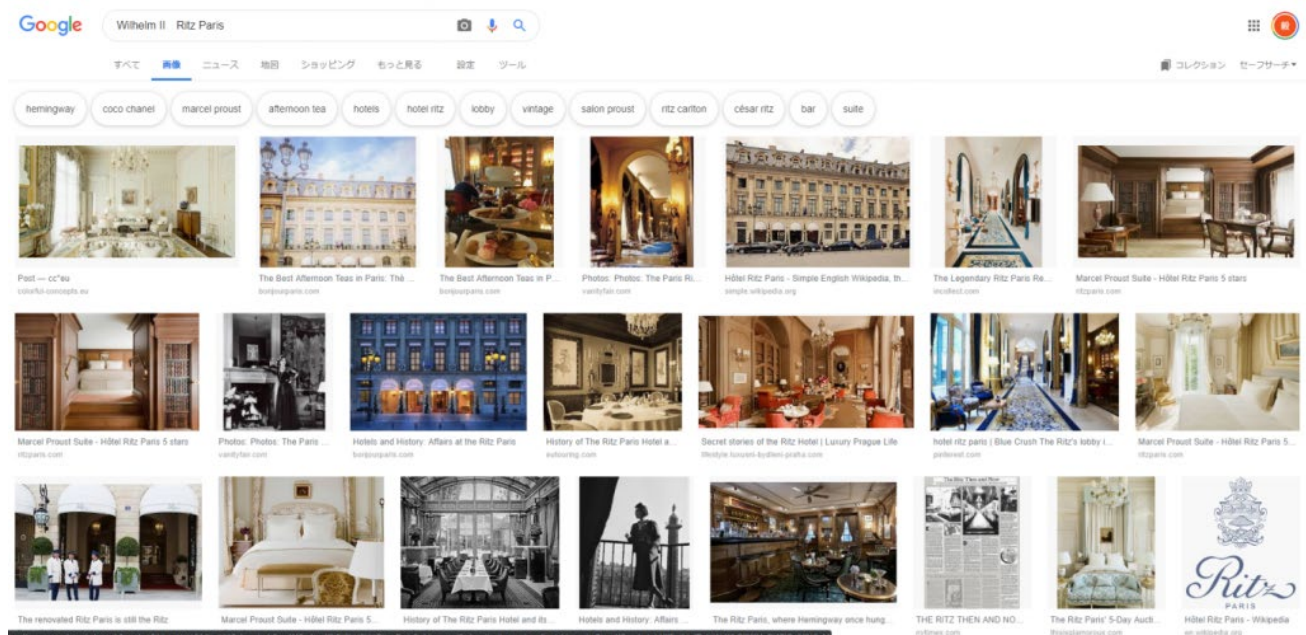
5: むろんリッツパリは会員制ホテルではない。しかしながらあたかも会員制のように使われる一面があった。

著名人がさながら「下宿」するように長期滞在し、また、固有名詞をバーの名称に付し、数多くの元首がたびたび訪れ、また、映画や小説のシーンに描かれる。いささか嫌味を感じないでもないが、施設と「生活」が一体になった、利用者から見れば、まぎれもなく、熟した「行動空間」になっていたことである。都市ホテルであるが、リゾート機能をも備えていたといえよう。こうなると利用者は「会員」感覚ではなからうか。

6: リッツ個人は普仏戦争、第一次大戦を経験するが、創業期の時代も良かった。1900年の第5回パリ万国博覧会を一つの頂点に、ベル・エポック (Belle Epoque、仏:「良き時代」)であった。普仏敗戦、パリ・コミュン混乱、安定しない第三共和制など不安材料が多いが、産業革命後に芽生えた消費の興隆がフランス経済を活性化させた。そのなかでのいわば refinement の追及であった。

7: オーギュスト・エスコフィエ (Auguste Escoffier, 1846~1935年、以下エスコフィエ)との出会いである。のちにヴィルヘルム2世 (Wilhelm II., 1859~1941年)から「料理人の王様」《roi des cuisiniers》と呼ばれた。その先駆者はマリーアントワヌ・カレーメ (Marie-Antoine (Antonin) Carême, 1784~1833年)であるが、エスコフィエはカレーメの精巧で華やかなスタイルを単純化・近代化した。またレストラン経営者であり人材育成に努め、ま

た、厨房を組織化し旧弊を排除するなどの業績があり、業界では神格化されている。要はエスコフィエは合理的な精神の持主で、リッツが彼を共同経営者格に据えたのは、偶然の引き合わせとはいえ、リッツ本人にとって幸運だった。



ために Google で Ritz Paris と Wilhelm II で検索したときの画像

8: Ritz Paris は再度修復され、2016 年に再登場した。エジプトの事業家 Mohammed Al-Fayed は、1.4 億ユーロ、建築家 800 人、職人 45 組合、Bouygues Construction (仏大手建設) が率いる大プロジェクトとある。これについての要約作業はまた別の機会に譲ろう。

Ritz Paris に凝縮された refinement あるいは elegance は、伊藤與朗や伊藤勝康との議論により、「センスの良い高級感」に翻訳され、そこに 具体の開発用地や施設の目的に沿った解釈が加わり、ひとつに融合してコンセプトができあがったのではなかろうか。

選ばれた設計家や室内スタイリストたちは、そのコンセプトにより指示されたことを、自らの感性や技術により具現化して、京都八瀬や湯河原の離宮シリーズの なかに浸透していったと推測する。それは単に室内や建物のかたちのみならず、スタッフが提供するサービスとあいまって、会員や利用者が立ち振る舞うすがた にも反映されよう。

こうした視点から、京都八瀬や湯河原の離宮を紹介するのは、はなはだ楽しみである。

afternoon tea

hotel ritz

ritz london

thierry despont

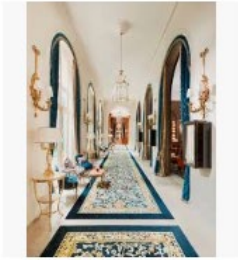
coco chanel

hotels

cesar ritz

salon proust

luxury



The Legendary Ritz Paris ...
incollect.com



Suite Impériale at the Ritz P...
pinterest.com



Ritz Paris and Hôtel de Crillon reope...
scmp.com



History of The Ritz Paris Hotel ...
eutouring.com



The re
theaus



Ritz Paris: A brief history of the Ritz Paris, wh...
scoopnest.com



History of The Ritz Paris Hotel and its ...
eutouring.com



リッツ・パリ」で強盗事件発生！ 宝石泥棒がこれほど...
chifumimurase.hateblo.jp



12 Best Ritz Carlton image...
pinterest.com



The Legendary Ritz Paris Reopens | Incollect
incollect.com



History of The Ritz Paris Hotel and its Reno...
eutouring.com



Most Famous Hote
oyster.com



おなじく Google で Ritz Paris を検索し、さらに「Lobby」で検索したさいの画像例